

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 302 2023年2月28日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

市立幼稚園を減らすな

2月27日 文教委員会 池田委員

議案29号学校設置条例の一部を改正する条例案は、ひがしなえぼ幼稚園、あつべつきた幼稚園、もいわ幼稚園、手稲中央幼稚園の4園の廃止が含まれた改正案であり、特別な教育的支援を必要とする幼児の受け入れなどの重要な役割があるにも関わらずこれらは認められないとして、池田市議が質問に立ちました。

同市議は「本市の市立幼稚園のあり方に関する方針に、特別な教育的支援を必要とする幼児が増えていると報告されている。障害があることで就園先を見つけることに苦労されているお話も伺っている」と札幌市の報告書や市民の声を引用しながら、「閉園する地域での教育的支援を必要とする幼児の周辺環境が狭まっていくのではないかと考えますがいかがか」と質問。市の担当者は「特別な教育的支援を必要とする幼児の受け入れは、私立の幼稚園においても行っている。また、支援を必要とする幼児への適切な対応や指導方法について助言等を行う幼児教育支援員を各市立幼稚園に配置もしている。適切な対応がなされるよう、引き続き効果的な訪問支援等を実施してまいりたい」と市民の生活状況や要望を踏まえない答弁でした。

池田市議は「私立幼稚園では、人的な配置や専門的な点から、障害のある幼児の受け入れを躊躇する場合も考えられる、またそういった声も聞いている。そういう中でどんな場合でも受け入れてくれる市立幼稚園の存在は重要であり、特別な教育的支援を必要とする幼児への支援は、民間任せではなく市が主体となって受け入れていくべきだ」と市に強く求めました。

感染症対策 子ども達がルール作れる場所を

2月27日 文教委員会 池田委員

文教委員会に付託された陳情第154号「子どもたちの生活がより文化的なものとなるよう感染症対策の緩和について札幌市としてのメッセージ発出を求める陳情」について、池田市議が質問に立ちました。

陳情は、感染症対策緩和の1つとしてマスクを外すように札幌市が学校に呼びかけて欲しいというものであり、未だに収束を見せないコロナ禍やインフルエンザの流行によって、学級閉鎖が相次いで発生している点から全てに賛同出来るものではありませんでした。しかし、市の学校における感染症対策が不十分だったことと今後も未知の感染症が発生する可能性も踏まえて、「感染防止のために、換気以外で整備したものは何か」と簡潔に質問。市の担当者は「マスク、消毒用、飛沫対策用の物品など、各学校が実情に応じて判断し、購入している」と答弁しました。

同市議は「子ども達はマスクを外せと言われても、祖父母に移したくないとか、親が医療従事者だとか家庭によって事情は様々で、子どもなりに悩んでいる話も聞いている。一律に対応するのでは無く、子ども達の事情も踏まえて、本人達が話し合える場が必要ではないか」と質問。市の担当者は「そういった場を各学校で作っていくということは非常に重要。これからも子どもたちに、もっとも身近な、教職員等が寄り添った対応を続けてまいりたい」と極めて前向きな答弁でした。最後に「安心して過ごせる学校生活となるように努力していくことが大事」と述べ、質問を終えました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。